

浦一章先生 略歴および主要業績一覧

浦一章先生は2023年3月末をもって停年退職される。そこで南欧語南欧文学研究室の同僚と学生は、感謝の意を込め、『イタリア語イタリア文学』第9号を停年記念号とする。以下に浦先生の略歴および主要業績についてまとめる。

浦 一章 Ura Kazuaki

1959年富山県生まれ

略歴

- 1982年3月 東京大学教養学部教養学科イギリス科卒業
- 1984年3月 同 文学部イタリア語イタリア文学専修課程卒業
- 1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科フランス語フランス文学専門課程（イタリア語イタリア文学専攻）修士課程修了
- 1987年4月 東京大学大学院人文科学研究科フランス語フランス文学専門課程（イタリア語イタリア文学専攻）博士課程進学
- 1988年3月 東京大学大学院人文科学研究科フランス語フランス文学専門課程（イタリア語イタリア文学専攻）博士課程中途退学
- 1988年4月 東京芸術大学音楽学部一般学科専任講師
- 1990年4月 同 助教授
- 1994年4月 東京大学文学部南欧語南欧文学科助教授
- 1995年4月 同 大学院人文社会系研究科助教授
- 2007年4月 同 大学院人文社会系研究科准教授

2008年10月 論文「工房の秘密を求めて——ダンテへダンテから」により
東京大学にて博士（文学）の学位取得
2010年4月 同 教授、現在に至る。

主要業績

単著

『ダンテ研究 I —— Vita Nuova, 構造と引用』、東信堂、1994年。

『メモ式イタリア語早わかり』、三修社、1995年。

Grammatica basilare della lingua italiana (イタリア語文法の基礎)、東大教材出版、1995年。

Iniziazione alla lingua d'oc medievale (中世オック語入門)、東京大学生協、2001年。

共著

『岩波講座文学：13 —— ネイションを超えて』、岩波書店、2003年、15-31頁（「ダンテとイタリア文学の創造」）。

『Piazza (東京大学イタリア語教材)』(東京大学イタリア語教材編集委員会編)、東京大学出版会、2004年。

『哲学の歴史 第4巻 ルネサンス 15-16世紀 世界と人間の再発見』(伊藤博明責任編集)、中央公論新社、2007年、359-360頁（「ダンテとルネサンス」）。

『ヴィーナス・メタモルフォーシス—国立西洋美術館「ウルビーノのヴィーナス展」講演録』、三元社、2010年、123-70頁。

『黎明のアルストピア：ベッリーニからレオナルド・ダ・ヴィンチへ』(金山弘昌責任編集)、ありな書房、2018年、325-344頁（「文学的 ロレンツォ・デ・メディチとイタリア文学」）。

学術論文

「Vita Nuova —— 文化と詩の交叉点としての」、『イタリア学会誌』第38号、1988年、170-192頁。

「Vita Nuova に於ける Dante の手法と教養形成の一面——《食べられる心臓》

- をめぐって』、『東京芸術大学音楽学部紀要』第15号、1990年、1-36頁。
- 「Vita Nuova III章と *sogno premonitore* の文学的伝統（前）」、『東京芸術大学音楽学部紀要』第17号、1992年、1-17頁。
- 「“Donna Gentile”をめぐる Vita Nova と Convivio の矛盾について：「自己引用」と「記号」の再解釈という視点から」、『イタリア学会誌』第43号、1993年、174-198頁。
- 「Vita Nuova III章と *sogno premonitore* の文学的伝統（後）」、『東京芸術大学音楽学部紀要』第18号、1993年、47-72頁。
- 「「伝統」・「読み」・「私」」、『Azzurro ——東京大学文学部伊語伊文学研究室紀要』第1号、1994年、123-141頁。
- 「恐るべきシンメトリー——ダンテとブレイク」、『イタリア語イタリア文学研究』（東京大学文学部南欧語南欧文学研究室紀要）第1号、1995年、203-233頁。
- 「ダンテとウリクセス」、『ルネサンスにおける異教的伝統の再検討』、平成6年度科学研究助成金総合研究（A）〔研究代表者：伊藤博明〕 研究成果報告書、1995年、17-51頁。
- 「Vita Novaにおける「韻文」と「散文」——ミクロテキストとマクロテキスト——清瀬卓氏の書評に対する反論」、『ルネサンス研究』第3号、ルネサンス研究会、1996年、77-114頁。
- 「ダンテとブレイク——差異と類似」、『ルネサンスにおける自然観の総合的研究』、平成9-12年度科学研究費補助金基盤研究（B）(1)〔研究代表者：伊藤博明〕 研究成果報告書、2001年、123-165頁。
- 「ひとつの試み——『キタ・ノワ』の章分けをめぐる」、『ルネサンスにおける自然観の総合的研究』、平成9-12年度科学研究費補助金基盤研究（B）(1)〔研究代表者：伊藤博明〕 研究成果報告書、2001年、166-277頁。
- 「聖母のライヴァルたち」、『古典の伝承——ミーニュのラテン語教父全集とヨーロッパ中世・ルネサンス文学』、平成11-13年度文部省科学研究費補助金基盤研究（B）〔研究代表者：片山英男〕 研究成果報告書、2002年、17-68頁。
- 「調和の幻影——ダンテとブレイク」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第2号、2002年、1-56頁。

- 「ランボーとダヌンツィオ」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第2号、2002年、119-143頁。
- 「ダンテとイタリア文学の創造」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第2号、2002年、145-164頁。
- Un'agghiacciante simmetria: W. Blake lettore-illustratore di Dante*, in Shigetoshi Osano (a cura di), *Visioni dell'aldilà in oriente e occidente: Atti del Convegno di studi (Firenze, Biblioteca degli Uffizi, 21 marzo 2003)*, Tokyo, Facoltà di Lettere, Università di Tokyo, 2003, pp. 35-64.
- 「ダンテ『水陸論』——アリストテレス受容の一例としての」、『近現代社会と古典』、平成10-14年度科学研究費助成金特定領域(A)118「古典学の再構築」研究成果報告集(B03「近現代社会と古典」班研究報告、月村辰雄編)、2003年、105-122頁。
- 「恐るべきシンメトリー——ダンテの読者、挿絵画家としてのブレイク」、『死生学研究』2003年秋号、東京大学大学院人文社会系研究科、2003年、354-378頁。
- Petrarca e la sestina*, in «JTLA», vol. 29/30, Tokyo, Facoltà di Lettere, Università di Tokyo, 2004, pp. 95-112.
- 「ペトラルカとセステーナ」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第3号、2006年、31-71頁。
- 「ペトラルカ『カンツォニエーレ』への補註——73番67-72、その他」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第3号、2006年、71-154頁。
- 「工房の秘密を求めて——ダンテへダンテから」、東京大学大学院人文社会系研究科提出博士論文、2008年。
- Una tradizione: viso – riso – Paradiso*, in «Lingua e Letteratura Italiana», vol. IV, Facoltà di Lettere, Università di Tokyo, 2008, pp. 1-27.
- Tre fonti di Giacomo da Lentini: Andreas Capellanus, Jaufre Rudel e leggenda tristaniana*, in «Lingua e Letteratura Italiana», vol. IV, Facoltà di Lettere, Università di Tokyo, 2008, pp. 29-46.
- 「ジャコモ・ダ・レンティーニにおけるマクロテキスト」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）、第

4号、2008年、47-159頁。

「文学史のために——2つの覚書」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第4号、2008年、161-244頁。

「1980年代以降におけるウフィツィ美術館自画像コレクションの拡張——取得作品に関する資料紹介」、『美術史論叢』（東京大学人文社会系研究科・文学部美術史研究室紀要）第25号、2009年、136-143頁。

La tenzone del "duol d'amore". La linea Notaio-Dante da Maiano-Boccaccio, in «Medioevo letterario d'Italia» n. 7, 2010, pp. 9-28.

「イタリア文学におけるヴィーナスとその周辺人物たち」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第5号、2010年、3-52頁。

「ダンテは『神曲』をいかに書き進めたか——「地獄篇」第26歌に関する一考察」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第5号、2010年、75-120頁。

Due note per l'uso dei segni diacritici, in «Lingua e Letteratura Italiana», vol. V, Facoltà di Lettere, Università di Tokyo, 2010, pp. 167-179.

La retorica dell'anima solitaria: tre sonetti di Torquato Tasso, in «Lingua e Letteratura Italiana», vol. V, Facoltà di Lettere, Università di Tokyo, 2010, pp. 181-193.

How Dante Stepped Forward in Writing the Divine Comedy: an Observation on the Inferno XXVI, in «The Development of the Anglo-Saxon Language and Linguistic Universals», v. 8, Tokyo, Senshu University: Center for Research on Language and Culture – Institute for the Development of Social Intelligence, 2010, pp. 15-28.

La ricezione della letteratura italiana in Giappone: il caso di Dante, in «Satura: arte letteratura spettacolo», n. 15, 2011, pp. 15-38.

「孤独な魂のレトリック——タツソの短詩をめぐって」、『文化交流研究』（東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要）第24号、2011年、9-24頁。

「到来することば——ポワティエ伯ギリェム七世の謎歌をめぐって」、『文学』、岩波書店、2011年、100-113頁。

「「恋愛の苦しみ」(duol d'amore) をめぐるテンツォーネ——「公証人」から

- ボッカッチョにいたる系譜』、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第6号、2012年、3-53頁。
- 「Dante e l'invenzione della letteratura "nazionale"」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第6号、2012年、129-143頁。
- Dante e l'invenzione della letteratura "nazionale"*, in Neria De Giovanni (a cura di), *Letteratura e sentimento nazionale nel nome di Francesco De Sanctis*, Alghero-Roma, Edizioni Nemapress, 2012, pp. 155-167.
- 「フェルディナンド・デ・メディチ大公子の蒐集活動に関する史料から——ラファエッロ《天蓋の聖母》の取得を中心に」（イタリア人協力研究者らによる原文テキストの転写を含む）、『美術史論叢』（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美術史研究室紀要）第29号、2013年、91-152頁。
- Tre note per Guido Guinizelli, Nicolò de' Rossi e Giovanni Quirini*, in «Letteratura italiana antica», XV, 2014, pp. 199-222.
- 「3つの覚書——ゲイニッツェリ、ニコロ・デ・ロッシ、ジョヴァンニ・クイリーニ」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第7号、2014年、3-65頁。
- 「フェルディナンド・デ・メディチ大公子の蒐集活動に関する史料から（2）」、『美術史論叢』（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美術史研究室紀要）第30号、2014年、106-164頁。
- Giovanni Quirini, lettore "sintagmatico" di Dante, Rime, LXVII e LXVIII*, in I. Paccagnella e E. Gregori (a cura di), *Lingue testi culture. L'eredità di Folena vent'anni dopo. Atti del XL Convegno Interuniversitario (Bressanone, 12-15 luglio 2012)* [=«Quaderni del Circolo filologico linguistico padovano», 28], Padova, Esedra, 2014, pp. 349-369.
- Il genere Renga e l'autorialità plurima*, in A. Barbieri e E. Gregori (a cura di), *L'autorialità plurima. Scritture collettive, testi a più mani, opere a firma multipla. Atti del XLII Convegno Interuniversitario (Bressanone, 10-13 luglio 2014)* [=«Quaderni del Circolo filologico linguistico padovano», 30], Padova, Esedra, 2015, pp. 319-334.
- 「レオパルディ『カンティ』への補註（1）—— Passero solitario をめぐって」、

『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第8号、2016年、3-47頁。

「旅する詩人の日伊比較——西行、ダンテ、ペトラルカ」、『西行学』第9号、笠間書院、2018年、250-256頁。

小論・解説等

「ダンテ批評の構造化」、『現代詩手帖』第7号、新潮社、1986年、201-206頁。

「アメリカ最新の対訳本が提起したこと——Vita Novaの章分け」、『イタリア図書』、Nuova Serie, n.19、イタリア書房、1997年、34-39頁。

「書物が商品になる過程」、東京大学大学院人文社会系研究科編『記憶と再生——文化資源学の構想』、東京大学大学院人文社会系研究科、1998年、14-15頁。

「ベアトリーチェとジャン・ガレアツォ・ヴィスコンティ——文学における学際的な研究の可能性について」、『学術月報』第52巻8号、日本学術振興会、1999年、34-36頁。

「イタリア・ルネサンス期の刊本コレクション」、『図書館の窓』（東京大学附属図書館報）第38巻6号、東京大学出版会、1999年、74-76頁。

「奇蹟の婦人ベアトリーチェ」、『ダンテ、ペトラルカほか』（週間朝日百科「世界の文学 57」）、朝日新聞社、2000年、196-200頁。

「「聖俗」のあいだで——ダンテにおけるラテン語と母語」、『言語』第10号、大修館書店、2002年、54-59頁。

学校法人上智学院編纂委員会編『新カトリック大事典』第3巻、研究社、2002年、1014-1015頁（「ダンテ」の項）。

「ジョヴァンニ・バディーレ関係古文書——グアンティエーリ礼拝堂に関する」、『ヴェローナの画家一門バディーレ家（14-16世紀）に関する包括的な調査研究』、平成13-15年度科学研究費助成金特定領域基盤研究(B)(2) [海外学術調査] 研究成果報告書 [研究代表者：小佐野重利]、2004年、65-73頁。

「ダンテのフィレンツェ」、『フィレンツェ——芸術都市の誕生』（東京都美術館展覧会カタログ）、日本経済新聞社、2004年、53-59頁。

- 「Zephiro torna の韻律構造」、『第4回世界イタリア語週間開催およびペトラルカ生誕700年記念にあたって』（行事パンフレット、東京、イタリア文化会館・イタリア大使館・日本経済新聞社・クルスカ学会・イタリア外務省・イタリア大統領府）、2004年、8頁。
- 「ペトラルカ生誕七〇〇周年に寄せて」、『UP』第377号、東京大学出版会、2004年、34-38頁。
- 「帰国後のファルサーリ——その活動のひとつの記録」、『美術史論叢』（東京大学文学部美術史研究室紀要）第23号、2007年、88-103頁。
- 「帰国後のファルサーリ——その活動のひとつの記録」、『1880年代の民間レベルにおける日伊芸術交流史の再検討』、平成17-19年度科学研究費補助金基盤研究（B）（2）〔研究代表者：小佐野重利〕研究成果報告書、2008年、46-49頁。
- 「ファルサーリ文庫目録」、『1880年代の民間レベルにおける日伊芸術交流史の再検討』、平成17-19年度科学研究費補助金基盤研究（B）（2）〔研究代表者：小佐野重利〕研究成果報告書、2008年、121-127頁。
- 学校法人上智学院編纂委員会編『新カトリック大事典』第4巻、研究社、2009年、534-535頁（「ペトラルカ」の項）、676-677頁（「ボッカッチョ」の項）。
- 『「神曲」への道程』、Inferno Purgatorio Paradiso. *Trilogy freely inspired to the Divine Comedy by Dante Alighieri*（＝フェスティバル・トーキョー09秋『神曲——地獄篇／煉獄篇／天国篇』パンフレット）、フェスティバル・トーキョー実行委員会、2009年、27-29頁。
- 『ウフィツィ美術館自画像コレクション—巨匠たちの「秘めた素顔」1664-2010—』（損保ジャパン東郷青児美術館展覧会カタログ）、小佐野重利・田中正之責任編集、朝日新聞社、2010年、14-18頁（翻訳）、228-237頁（「資料編」の編集および翻訳）
- 「レオナルド・ダ・ヴィンチの蔵書と空想」、『ミラノ アンブロジーアーナ図書館・絵画館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ展——天才の肖像』（東京都美術館展覧会カタログ）、小佐野重利責任編集、TBSテレビ、2013年、140-144頁。
- La biblioteca e la fantasia di Leonardo da Vinci*, 『ミラノ アンブロジーアーナ図書館・

絵画館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ展——天才の肖像』（東京都美術館展覧会カタログ）、小佐野重利責任編集、TBS テレビ、2013年、331-333頁。

ミラノ アンブロジアーナ図書館・絵画館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ展——天才の肖像』（東京都美術館展覧会カタログ）、小佐野重利責任編集、TBS テレビ、2013年、144頁（48『イソップの生涯と寓話』）、146頁（49『軍事論集』）、148頁（50『フィオーレ・ディ・ヴィルトゥ』）、152頁（52 フィチーノ『プラトン神学魂の不死性について』）、158頁（55 ピガフェッタ『最初の世界周航』）、168頁（57-58 マルコ・ポーロ『東方見聞録』）

「フェルディナンド・デ・メディチ大公子の蒐集活動に関する史料から（1）—— 2012年度調査報告、ラファエッロ《天蓋の聖母》の取得を中心に」、小佐野重利編『西欧17世紀以降の王侯の絵画コレクションの形成における複製絵画の影響』、平成23-25年度科学研究費補助金基盤研究(B) [研究代表者：小佐野重利] 研究成果報告書、東京大学大学院人文社会系研究科美術史研究室、2014年、55-78頁（史料の翻訳および解説）。

「フェルディナンド・デ・メディチ大公子の蒐集活動に関する史料から（2）—— 2013年度調査報告」、小佐野重利編『西欧17世紀以降の王侯の絵画コレクションの形成における複製絵画の影響』、平成23-25年度科学研究費補助金基盤研究(B) [研究代表者：小佐野重利] 研究成果報告書、東京大学大学院人文社会系研究科美術史研究室、2014年、79-99頁（史料の翻訳および解説）。

翻訳

ウンベルト・エーコ「超越的特質としての美（前）」、季刊『哲学』1988夏、1988年、23-45頁。

ウンベルト・エーコ「超越的特質としての美（後）」、季刊『哲学』1989夏、1989年、204-220頁。

マリオ・プラッツ『ローマ百景〈1〉建築と美術と文学と』（伊藤博明、白崎容子との共訳）、ありな書房、2000年。

ロジェ・シャルティエ、グリエルモ・カヴァッロ編『読むことの歴史——

- ヨーロッパ読書史』(大野英二郎、片山英男、田村毅、月村辰雄、平野隆文、横山真由美との共訳)、大修館書店、2000年。
- 『ジョヴァンニーノ・デ・グラッシの素描帖:ベルガモ市立図書館蔵本ファクシミリ版』(小佐野重利との共訳)、岩波書店、2000年。
- 「原典資料紹介 グリエルモ・エブレオ『舞踊の技と実践』」、『西洋美術研究』第5号、三元社、2001年、148-159頁。
- マリオ・プラッツ『蛇との契約——ロマン主義の感性と美意識』、ありな書房、2002年。
- ウォルター・ペイター「シャドウエル訳『ダンテ』」、『ウォルター・ペイター全集』第1巻、筑摩書房、2002年、526-536頁(本文)、586頁(訳者後記)。
- J.R.ヘイル編、中森義宗監訳『イタリアルネサンス事典』(共訳)、東信堂、2003年、22項目翻訳、60項目校閲、「グロッサリー」の監訳および追加7項目執筆。
- チャールズ・S・シングルトン『キタ・ノワ試論』序論、第1章、『ルネサンス研究』第8号、2003年、88-150頁。
- セルジョ・マリネッリ「バディーレー族」、『ヴェローナの画家一門バディーレー家(14-16世紀)に関する包括的な調査研究』、平成13-15年度科学研究費助成金特定領域基盤研究(B)(2)[海外学術調査]研究成果報告書[研究代表者:小佐野重利]、2004年、65-73頁。
- 「エンリーコ・ボルポーネーの横浜滞在記」、『1880年代の民間レベルにおける日伊芸術交流史の再検討』平成17-19年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)[研究代表者:小佐野重利]研究成果報告書、2008年、97-120頁。
- チャールズ・S・シングルトン『キタ・ノワ試論』第2章、『イタリア語イタリア文学』(東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要)第4号、2008年、293-340頁。
- クラウドディオ・ジュンタ「ダンテ『詩集』への新註釈」、『イタリア語イタリア文学』(東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要)第5号、2010年、53-73頁。
- チャールズ・S・シングルトン『キタ・ノワ試論』第3章、『イタリア語イタ

- リア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第5号、2010年、196-237頁。
- 「ウフィツィ美術館自画像コレクション関連の資料から」、『美術史論叢』（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美術史研究室紀要）第26号、2010年、104-52頁。
- チャールズ・S・シングルトン『キタ・ノワ試論』第4章、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第6号、2020年、145-194頁。
- 『ミラノ アンプロジアーナ図書館・絵画館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ展——天才の肖像』（東京都美術館展覧会カタログ）、小佐野重利責任編集、TBS テレビ、2013年、158, 168頁。
- チャールズ・S・シングルトン、『キタ・ノワ試論』第5章、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第7号、2014年、91-109頁。
- 「エンリーコ・ディ・ボルボナーネ一行の九州滞在記」、『イタリア語イタリア文学』（東京大学人文社会系研究科南欧語南欧文学研究室紀要）第7号、2014年、111-208頁。
- 『オリジナルとコピー——16世紀および17世紀における複製画の変遷』、小佐野重利編著、浦一章監訳、三元社、2019年、83-127頁（資料編：永井裕子との共訳）。

書評

- リナ・ボルツォーニ『クリスタルの心——ルネサンスにおける愛の談論、詩、そして肖像画』（足立薫・伊藤博明・金山昌弘訳、東京、ありな書房、2017年）、『図書新聞』第3337号、2018年2月3日、4頁。